

WG 活動報告

20: GVHD 以外の移植関連合併症

① WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
中沢 洋三	信州大学医学部附属病院	小児科
小池 隆志	東海大学医学部附属病院	小児科・細胞移植科
桑原 英幸	横浜市立大学附属市民総合医療センター	血液内科
大橋 一輝	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
薬師神 公和	神戸大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
今橋 真弓	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院がん治療センター	血液腫瘍内科
森 有紀	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
鬼塚 真仁	東海大学医学部附属病院	血液腫瘍内科
西田 徹也	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
三原 英嗣	愛知医科大学病院	血液内科
林 良樹	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
小嶋 靖子	東邦大学医療センター大森病院	小児科学第一講座
大島 久美	聖路加国際病院	血液腫瘍科
仲宗根 秀樹	Stanford University School of Medicine	Division of Blood and Marrow Transplantation
長村 登紀子	東京大学医科学研究所附属病院	セルプロセッシング・輸血部
田野崎 隆二	国立がん研究センター 中央病院	輸血療法科
鈴木 律朗	名古屋大学医学部附属病院	造血細胞移植情報管理・生物統計学
土居崎 小夜子	名古屋大学医学部附属病院	小児科
松本 公一	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター血液腫瘍科
鈴木 信寛	北海道立子ども総合医療・療育センター	小児科
辻 正徳	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
藤田 直人	広島赤十字・原爆病院	小児科
加藤 元博	埼玉県立小児医療センター	血液・腫瘍科
田口 潤	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
坂口 大俊	名古屋第一赤十字病院	小児医療センター血液腫瘍科
谷口 修一	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
横山 洋紀	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
石田 文宏	信州大学医学部	保健学科検査技術科学専攻 病院・病態検査学
前田 猛	京都大学医学部附属病院	外来化学療法部
竹中 克斗	九州大学病院	血液腫瘍内科(第一内科)
木村 文彦	防衛医科大学校	血液内科
高田 覚	済生会前橋病院	血液内科
太田 秀一	札幌北楡病院	血液内科
黒澤 彩子	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
緒方 正男	大分大学医学部附属病院	血液内科
藤井 伸治	岡山大学病院	輸血部

高松 博幸	金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学	血液内科
石井 一慶	関西医科大学附属枚方病院	第一内科
小林 真一	防衛医科大学校病院	血液内科
井上 明威	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
重松 明男	北海道大学病院	検査輸血部
杉田 純一	北海道大学病院	血液内科
高野 久仁子	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会今村病院分院	血液内科
池邊 太一	大分大学医学部附属病院	血液内科
植木 俊充	長野赤十字病院	血液内科
青木 淳	がん・感染症センター都立駒込病院	血液内科
藤 重夫	国立がん研究センター中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
冲中 敬二	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科
伊藤 歩	国立がん研究センター中央病院	造血幹細胞移植科

② 2012年12月末時点で承認された研究、及び業績一覧

20-1	「造血幹細胞移植後サイトメガロウイルス感染症の発症頻度、危険因子、予防法に関する研究」 PI: 西田徹也
学会発表: 西田哲也ほか、第35回日本造血細胞移植学会総会(平成25年3月7日-9日)、石川県立音楽堂ほか	
20-3	「同種造血幹細胞移植後の出血性膀胱炎(HC)に対する標準的予防法・早期治療法の確立に向けた抗ウイルス薬のHC発症抑制効果に関する検討」 PI: 中沢洋三
学会発表: 中沢洋三ほか、第35回日本造血細胞移植学会総会(平成25年3月7日-9日)、石川県立音楽堂ほか	
20-4	「造血幹細胞移植後合併症と長期予後に与えるHCV既感染の影響」 PI: 仲宗根秀樹
学会発表: Nakasone H, et al. 2012 BMT Tandem Meeting, Feb 1-5, 2012, San Diego, USA 仲宗根秀樹ほか、第34回日本造血細胞移植学会総会(平成24年2月24日-25日)、大阪国際会議場 論文業績: 投稿後審査中	
20-5	「同種造血幹細胞後の深在性真菌症に関する検討」 PI: 大島久美
学会発表: Oshima K, et al. 39th EBMT Annual Meeting (2013年4月7日-13日), London, UK. 大島久美ほか、第74回日本血液学会学術集会(平成24年10月19日-21日)、国立京都国際会館 論文業績: 執筆中	
20-6	「一元管理事業データに基づく同種造血幹細胞移植後の器質化肺炎(COP/BOOP)の解析」 PI: 仲宗根秀樹
学会発表: 仲宗根秀樹ほか、第74回日本血液学会学術集会(平成24年10月19日-10月21日)、国立京都国際会館 論文業績: 投稿後審査中	
20-7	「Hematopoietic Cell Transplantation Specific Comorbidity Index (HCT-CI)を用いた同種造血幹細胞移植後の予後予測に関する研究」 PI: 横山洋紀
学会発表: 横山洋紀ほか、第34回日本造血細胞移植学会総会(平成24年2月24日-25日)、大阪国際会議場 論文業績: 執筆中	
20-8	「同種造血幹細胞移植後の類洞閉塞症候群の発症割合、リスク因子ならびに治療法に関する研究」 PI: 薬師神公和
学会発表: 二次調査実施中のため未定	
20-9	「同種造血幹細胞移植後の微小血管症の発症割合、リスク因子、予後に関する研究」 PI: 名和由一郎
学会発表: 名和由一郎ほか、第34回日本造血細胞移植学会総会(平成24年2月24日-25日)、大阪国際会議場	
20-10	「小児および成人における移植後非感染性肺合併症に関する検討」 PI: 鬼塚真仁

学会発表: 鬼塚真仁ほか、第 35 回日本造血細胞移植学会総会(平成 25 年 3 月 7 日-9 日)、石川県立音楽堂ほか	
20-11	「造血幹細胞移植後ウイルス感染の造血器悪性腫瘍再発に及ぼす影響に関する研究」 PI: 竹中克斗
学会発表: 竹中克斗ほか、第 35 回日本造血細胞移植学会総会、シンポジウム(平成 25 年 3 月 7 日-9 日)、石川県立音楽堂ほか	
20-12	「小児に対する同種造血幹細胞移植後の生着不全に対する再移植の予後」 PI: 加藤元博
学会発表: Kato M, et al. 54th ASH Annual Meeting, Oral presentation (2012 年 12 月 8 日-11 日), Georgia World Congress Center, AL, USA. 加藤元博ほか、第 74 回日本血液学会学術集会(平成 24 年 10 月 19 日-21 日)、国立京都国際会館 論文業績: 投稿後審査中	
20-13	「同種造血幹細胞移植前の生活習慣病(糖尿病と肥満)が予後に与える影響について」 PI: 高野久仁子
学会発表: 高野久仁子ほか、第 35 回日本造血細胞移植学会総会(平成 25 年 3 月 7 日-9 日)、石川県立音楽堂ほか	
20-14	「骨髄非破壊的移植における生着前感染症」 PI: 重松明男
学会発表: 未発表	
20-15	「同種造血幹細胞移植における血流感染症の発症、リスク因子、予後に関する解析」 PI: 井上明威
学会発表: 未発表	
20-16	「血小板生着不全のリスク因子と予後に及ぼす影響」 PI: 木村文彦
学会発表: Kimura F. et al. 2013 BMT Tandem Meeting, Feb 13-17, 2013, Salt Lake City, CO, USA. 木村文彦ほか、第 35 回日本造血細胞移植学会総会(平成 25 年 3 月 7 日-9 日)、石川県立音楽堂ほか	
20-17	「同種造血幹細胞移植患者における侵襲性肺炎球菌感染症の特徴」 PI: 冲中敬二
学会発表: 未発表	

③ 会議開催記録(2012 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2012/1/9	東京医科歯科大学	進捗状況確認、研究内容の検討
2012/7/8	名古屋第一赤十字病院	進捗状況確認、研究内容の検討

④ メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2012 年 11 月末時点) (231)回

⑤ WG の今後の活動方針・抱負など

同種造血幹細胞移植成績向上のためには、GVHD と同様に、感染症や臓器障害などの合併症への対策が重要である。本 Working group では、2012 年の日本造血細胞移植学会で3演題、2012 年の日本血液学会で3演題、海外学会では2演題(Tandem BMT Meeting 1演題、ASH oral session 1演題)を発表し、うち3つの研究は英文誌へ投稿し審査中である。また 2013 年度は、日本造血細胞移植学会で5演題、EBMT と Tandem BMT Meeting で各1演題発表を予定している。本 WG の研究課題は、いずれも本邦初の大規模な報告であり、日常臨床においても重要なエビデンスとなることが期待される。ただし既存の一元化データベースでは、欠損が多い項目が解析対象となる場合が多いため、二次調査が必要となる割合が高い。2012 年は「類洞閉塞症後群(SOS)の発症割合、リスク因子、治療法、予後」に関する二次調査が承認され、現在、データ収集中である。今後、SOS に対するデフィブロタイドや遺伝子組み換えトロンボモジュリンアルファ製剤を保険承認申請する際の基礎資料としたい。